

平成30年3月3日

## ◇親にエール！ 「共に遊び 共に笑い 共に育ち合う」

山形県朝日自然の家  
所長 土屋 常義氏

### ○子育て=子育ち=親育ち

子どもには育つ力がある。親も一緒に育っていく。子育てしながら、自分も育つもの

○**五感に働く幼児期の自然体験の必要性**…人として生きていく為には実体験が必要。だからこそ、四季を五感で感じる経験が大切。例：冷たい水に手を入れてみる。オタマジャクシがいた。捕まえようとする失敗してしまった。次はこうしてみよう、お父さんの真似をしてみよう等と自ら学ぼうとする目が育っていく。⇒これが色々な事に対する意欲に繋がり、意欲があれば探求心が高まる。学びが楽しくなる。

○**実体験が大切なのは良く分かるものの、実際には「汚いからやめなさい」「危ないから」と大人が規制していないか？**友だちとのトラブルを親が知らぬ間に回避してはいないか？⇒言葉で、力で回避してあげるのは簡単な事。でも実際に体験しないと、痛さ、怖さ、心の葛藤等に立ち向かう力には繋がらない。 **だからこそ！保護者の方々へお願い！！**

「それはわかっている でも…だからできない」から「わかった よ～し」誰か手本になり、やってみよう！の『一歩前へ』

① 子どもには豊かな体験の場を。

② 親自身が子どもにとってのモデルになっている事を意識しましょう。

親自身も自らの感性でとらえた物事に対する優しさや悲しさ等を言葉で表現したり身近な動植物に触れ気遣う姿を見せ自己の言動を意識して表現することが大切。…**どんなモデルになっていますか。**  
(別紙：スマホを見つめる大人たち)

○便利な時代になった反面、人々の密な繋がりが少なくなっている時代。

⇒原体験は『子どもの知的好奇心』を高める。そしてその『体験』をした時『個々の自信』を育む。

➡その自信は更に『学ぶ意欲』を高め「なぜ」「もっとこうしてみたい」という『深い学び』に繋がる。

### ○親子で一緒に楽しもう！

～朝日少年自然の家の活動の写真を見ていると～全てに、『親子の笑顔』がある。

「人と触れ合って自然と出る笑顔」「活動を終えて満足感から出る笑顔」等、一人の笑顔は次の人の笑顔にそして次へ次へと笑顔は広がっていく。➡これを『笑顔のリレー』と言います。『原体験』は子ども達を笑顔にしてくれる。それを見た大人も嬉しくなる。また、やってみたくなる！

○「ありがとう」は日本語で一番美しい言葉。「ありがとう」は言っても言われても嬉しい言葉。  
「ありがとう」という言葉を発すると人に優しくなれたり、周りの人との関係も良好になれる魔法の言葉。『原体験』はこの素敵な言葉「ありがとう」も自然と出してくれる。

○親子で体験した後は「楽しかった？」と聞くのではなく「楽しかったね！」という『感動共有』を！  
子ども達は「常に真正面から向き合い成功したら子どもと一緒に喜び合い、失敗したら一緒に悔しがって、でもへこたれずまた挑戦するお父さん、お母さん」を求めている。

○子育ては楽しいことだけではありません。

辛いことを取り除こうとするのではなく、そこに何か一つを足せばいいのです。

辛 ➡

人は一人ではありません。支え合っている。

「ちゃんと誰かが見ている」

辛くなった時は、誰かに話しかけて下さい。

誰かが辛い思いをしていると気づいた時は声をかけ、横画の一本になってあげよう。

◇最後に…土屋先生の講演をお聞きして。

先生のお話をお聞きし特に印象に残ったのは『感動共有』『笑顔のリレー』という言葉です。  
親、大人としてそして、子どものモデルとして、子どもにこうしなさいと押しついたり完璧を求めたりすることではなく、失敗してもいいんだよ、また一緒に頑張ろう、と向き合ってくれる姿を見せていく事こそが、子ども達が安心して成長しようとする力となり、笑顔の花を咲かせるのでしよう。先生より最後に皆さんへ応援のメッセージとして、とても素敵な言葉を頂きました。

『顔晴（がんばれ）！！』